

大学院リハビリテーション研究科の始動

2021年8月、大学院リハビリテーション研究科修士課程の設置認可が下り、大学事務局の協力を得て、大学院チラシ、大学院概要パンフレット、2022年度募集要項を作成し、関係各所に配布した。一回目の大学院入試も終わり、2022年2月19日の二回目の大学院入試、2022年3月の研究科棟の竣工、2022年4月の開学に向けて準備が進められている。

大学院説明会

12月9日、水間病院1階会議室にて、沖田先生、西野先生はじめリハビリ専門職約30名に、大学院説明会を開催した。週一日の大学院での講義(オンラインでの参加も可)を受講し必要な32単位を修得し、自分の研究課題に取り組み、修士論文を作成することにより2年間で修士号が取得できることを説明した。各人の必要性に合わせて3年間のコースも設定できる、認知症に強いリハビリ専門職と地域リハビリテーションの推進を目的とした大学院であることを説明した。河崎建人理事長からは、働きながら修士号を獲得できるチャンスであり志のある方はチャレンジしてほしい。水間病院としても支援したいとの言葉をいただいた。12月16日、河崎病院3階リハビリ室にて、阿部先生以下リハビリ専門職約30名に対して大学院の説明をさせていただいた。河崎敦院長にもお越しいただきリハビリ専門職のスキルアップを支援したいとの言葉を頂戴した。本学では、2022年1月11日と1月22日に、臨床実習指導者会議が予定されており、会議開始前に大学院説明会を開催させていただく。1学年の定員は8名と設定されており、リハビリテーション専門職の修士課程への挑戦を楽しみにして広報活動を行っていききたい。

大学院入学試験

多くの大学院では、一回目入試を前年夏(8-9月)、二回目入試を入学年冬(1-2月)の二回に分けて入学試験を行っている。本学大学院では、認可が下りた最初の年であることから、一回目を2021年12月19日に二回目を2022年2月19日に入学試験を行うことにした。来年からは、夏と冬の二回の入学試験を予定している。本学初となる大学院入学試験を12月19日に行った。2名が受験したが、今回の出願者は2名とも臨床実務経験3年以上の社会人枠での受験であったので、英文読解(50分)と面接(20分)の二科目であった。卒業予定者や実務経験3年未満の者は一般入試枠を受験することになるが、その場合には、英文読解(50分)、小論文(50分)、面接(20分)の3科目となる。

英文読解試験

英文読解は、医学やリハビリテーションに関する有名英文雑誌から選んだ論文の一部を和訳させて英文読解力を見る試験である。本年度第一回の英文読解試験に用いた論文は、Lancet誌(2016)掲載のWorld report on ageing and health: a policy framework for healthy ageingから2問題、同じくLancet誌(2016)掲載のEarly physical and occupational therapy in mechanically ventilated, critically ill patients: a randomised controlled trialからの2問題であった。それぞれ100語程度の英文を読んで和訳することを求めたが、時間が足りなかったようで4問とも完全にできた人はいなかった。英和辞典の持ち込みを可としており、専門用語を全て記憶しておく必要はないが、英和辞典を引く時間が多くなると、4問全部を回答するためには時間が足りなくなったのではないと思われる。

面接試験

面接は3名の試験官が担当した。大学院入試には、事前に特別研究指導教員を選択して、その教員と相談を重ねて作成した研究計画書の提出を求めている。この研究計画書に基づいて、受験者に研究計画書の内容を説明してもらい、その学問的な位置づけ、社会的意義、実施可能性などについて質問した。また、当然のことながら実務経験をどのように大学院での研究に役立てようとしているのか、修士課程修了後のキャリアビルディングなどについても質問させていただいた。今回受験された2名の方は、事前に選んだ特別研究指導教員と相談を重ねて内容のある研究計画書を作成されていたように思う。

出願資格について

本学大学院は、リハビリテーション専門職(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)を対象に、認知症への対応力を身につけて地域リハビリテーションのリーダーとして活躍できる人材を育成することを目的としている。したがってリハビリテーション専門職の資格を有する人は、大学を終了していなくても受験することができる。専門学校を卒業してリハビリテーション専門職になられた人には、事前審査を受けていただき、本学において出願資格を審査して受験資格があるかどうかを決定することになっている。十分な実務経験と基礎能力がある人については、受験資格が認められる場合が多いものと考えている。

特別研究指導の決め方

本学大学院には12名の特別研究指導教員が配置されている。いずれも十分な研究実績を有する教員であり、自分の研究テーマに沿う内容の特別研究を指導してくれる可能性のある教員を選び、事前に相談してほしい。一人に絞り切れない場合も、どのようなテーマを考えているかを daigakuin@kawasakigakuen.ac.jp に連絡していただければ、事務局の方で適当と思われる指導教員を推薦してくれることになっているので、相談してほしい。

研究科棟の建設

昨年から本館北側にあった学生食堂クローバーを撤去した跡地に研究科棟の建設工事が進められてきたが、本年12月になって本館と同じ5階建ての研究科棟の5階屋根の防水工事が終了し、ほぼ全体の外観が見えてきた。1階にフロンティアリハビリテーションセンター、2階にラウンジとセミナー室、3階に実験室と研究室、4階に研究室、5階に会議室を配置した建物は予定通りに建設されており、2022年3月には竣工する予定で、大学院生を迎える準備が着々と整えられている。



5階建て研究科棟は、本館北側(中央環状道路側)に隣接して建設されており、本館とは各階廊下で接続される。大阪河崎リハビリテーション大学正門から撮影(2021年12月23日)



大阪河崎リハビリテーション大学本館の屋上から、現場建築部所長の説明を受けて、研究科棟屋上を撮影(2021年12月22日)

次回 CRRC セミナーのお知らせ

次回の第24回CRRCセミナーは、2022年1月25日(火曜日)11-13時に開催予定です。講演者は、大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科岩田晃教授による「高齢者の歩行機能向上のために」、本学理学療法学専攻久利彩子准教授による「片脚立位中の足趾機能について」です。会場でもネットでも参加できますが、会場にご参集の方はお弁当準備の都合がありますので、事前に本学事務庶務係 <soumu@kawasakigakuen.ac.jp> にお申し込みください。